

関西支部のユニークな 海外派遣研修事業を振り返る

関西支部会員海外派遣研修援助制度

50	19	389	94	24
47	2494	21	3110	
	100	3	45	

元特定幹事

京都大学 産官学連携センター

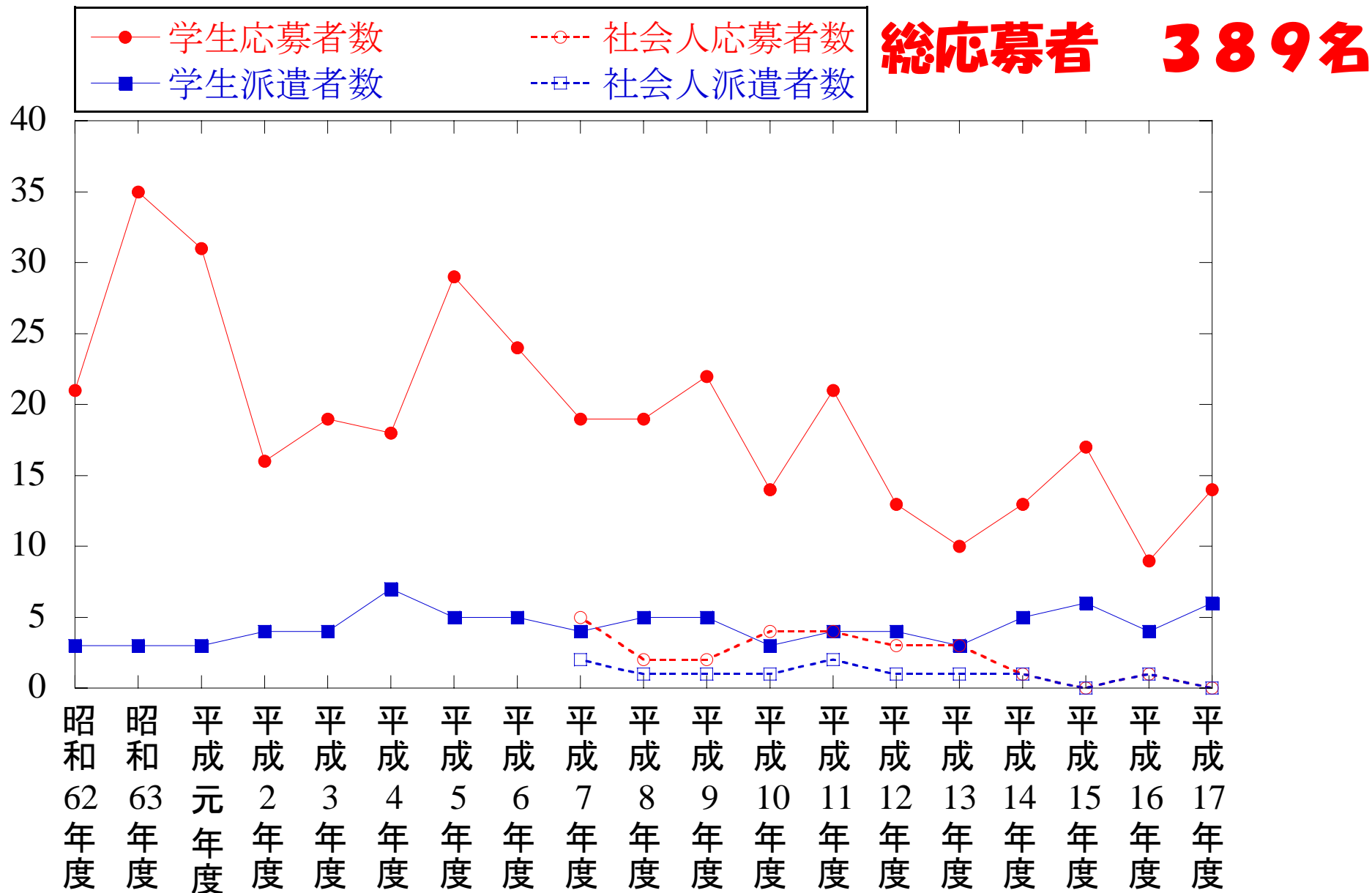
木村 亮

どこがユニークだったのか

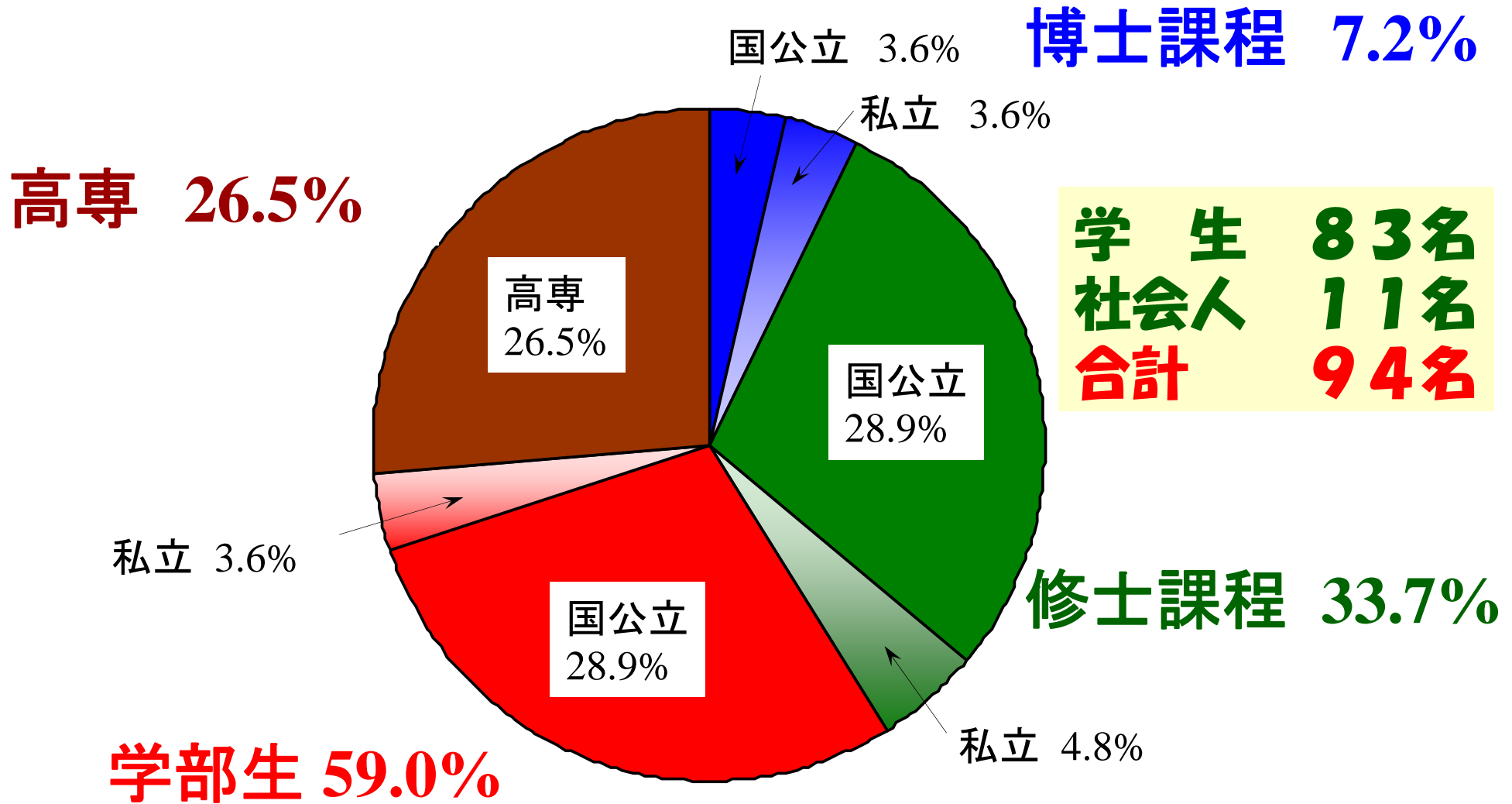
本格的な国際社会の到来という時代の潮流の中で、次代の土木界を担う学生会員および若手一般会員の方々に、諸外国の技術や文化に対する理解を深めていただき、さらには国際感覚を育んでいただくことを目的として実施 **（50万円まで援助）**

- **後々まで継続させる事業（19年間）**
- **学会本部が口惜しがるようなこと**
- **人への影響の大きさを痛感した制度**
- **君は永久幹事だ**

海外派遣制度への応募者数および派遣者数の推移



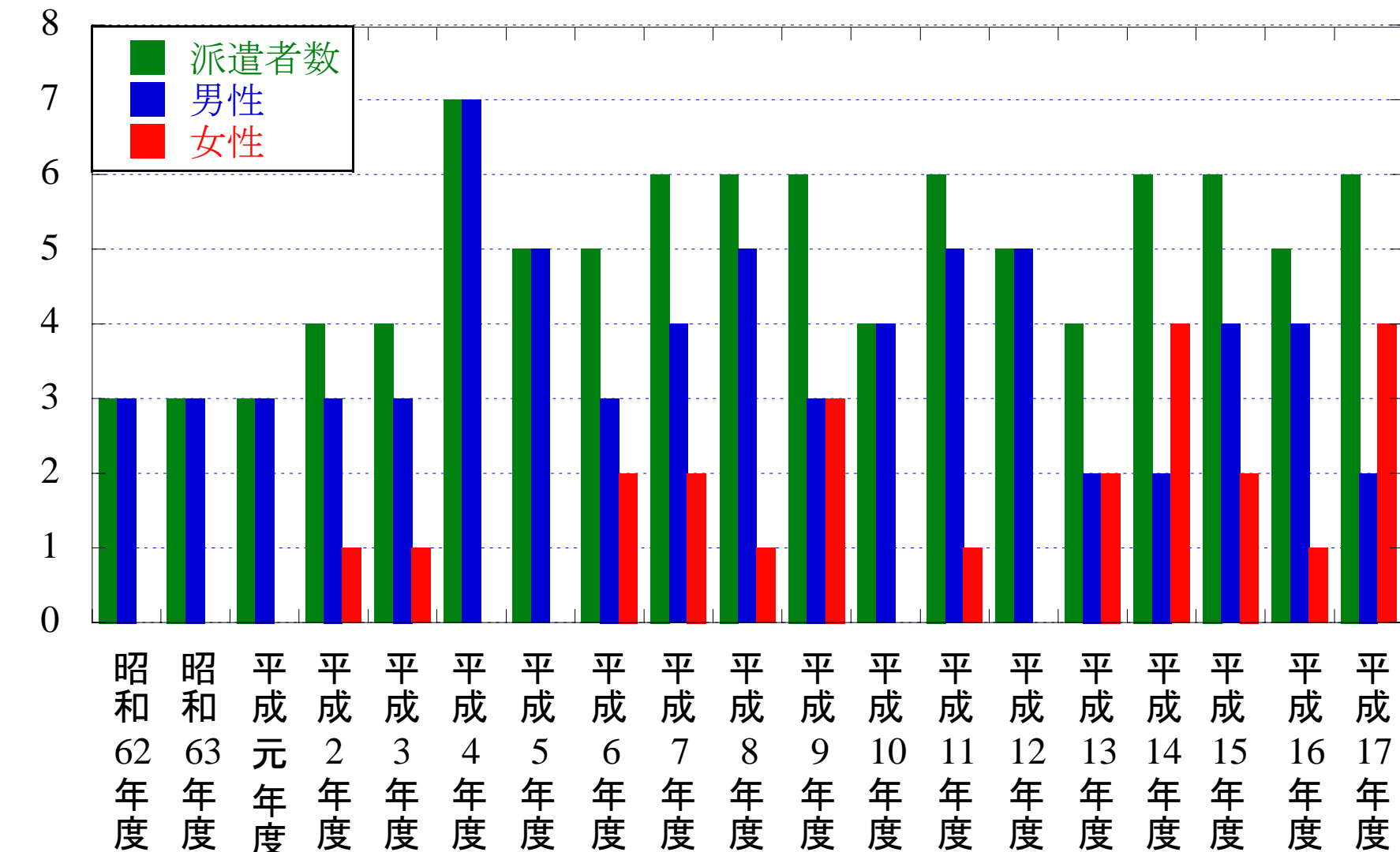
研修制度を利用した研修生の学年（学生のみ）




各年の派遣者数と派遣者の男女比

男性 70名 女性 24名

(人)

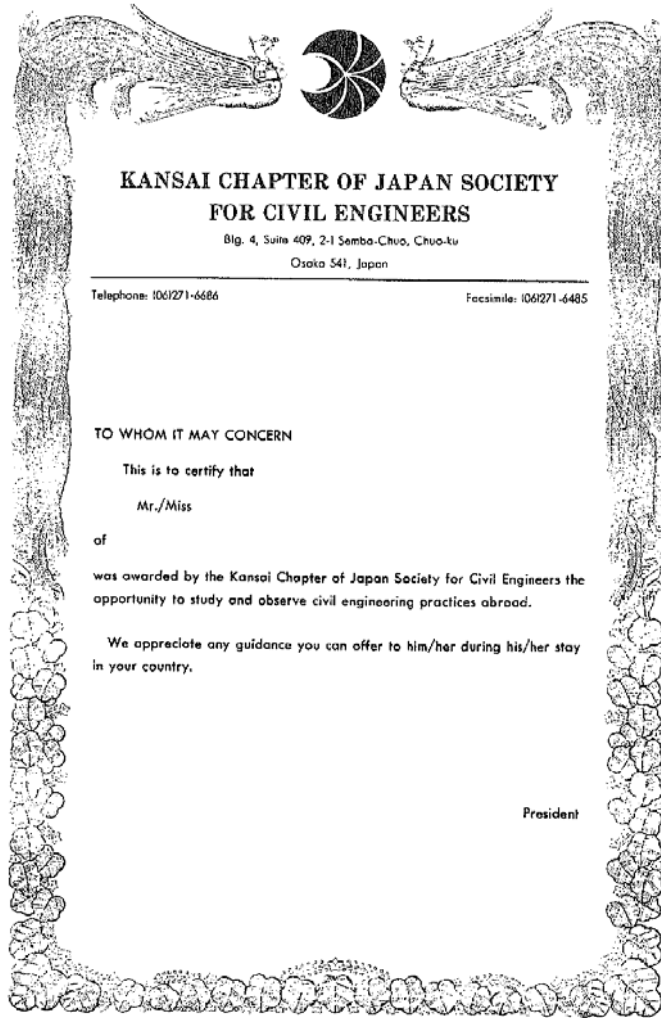


研修生の選考方法

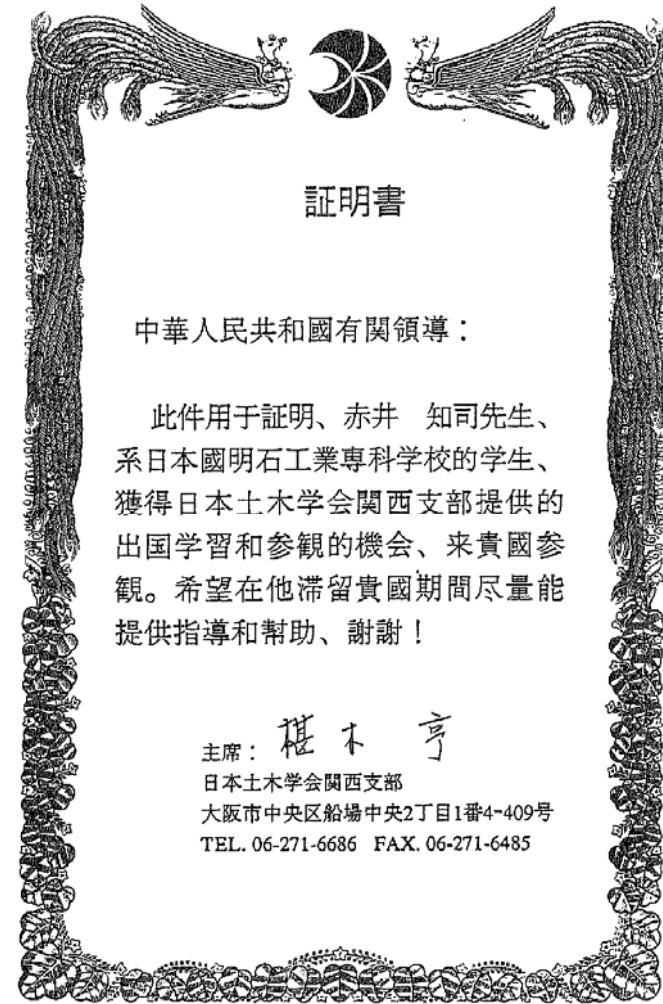
- 9月末** 研修計画の提出（1000字以内）
- 10月** 1次選考（書類）
- 11月 第2土曜** **2次選考（面接）**
- 12月から出発まで** **研修計画指導**
- 5月** 内部報告会
- 6月** **大学・高専での報告会**
（映画会と同時に）
- 

海外研修先のアポ

手紙 → FAX → Eメール



英語の認定証



中国語の認定証

義務は報告書、報告会、支部だより

支部だより
2003.7 No.60

平成14年度 会員海外派遣研修報告①

マリ共和国
大阪市立大学大学院 金田 倫子

ドゴン族とは数千年前からマリに住み着き、高度な象徴性を持った宇宙観とそれに基づく神話を持った伝統的な民族である。ドゴン族への最初の興味は彼らの宇宙観に対する姿勢であった。私たちが科学的根拠なしには信じ切れないものを理屈なしに信じ切れる、ものごとを素直に受け入れる姿勢である。自然と人間の間にある土木が彼らの生活の中でどのように位置づけられているのか、そこから私たちが学べるものは何かを研修を通じて見てくというのが私の目的であった。マリを旅行することは予想以上に難しく、日中の気温が40度以上ある中、バスに乗ったり、宿を探したりするだけで、精一杯であった。英語の通じない国で唯一話のできる自称ガイドに何度かだまされながらたどり着いたドゴン村の景色は壮大で初めてマリに来てよかったと思えた。ドゴン村では、崖に沿って点在する村を移動しながら各村を散歩するという毎日であった。村の建物は外観や配置、装飾にそれぞれ意味がこめられており、村人の生活を観察することで、彼らの伝統文化の深さ、また伝統に対する敬意が感じられた。目的の一つであった小学校はほぼ建設済みで、子供たちは主にフランス語、算数、理科を学んでいた。学習する機会が与えられたことを人は本当に喜んでいた。しかし、子供たちが覚えたてのフランス語で観光客に話す言葉は“何かものをください”である。私はそれを見て、かなしさと同時に何か空回りな感じがあった。小学校建設が、問題が解決されてしまったような錯覚を少なからず生んでいるのではないだろうか。学んだ言葉を生かすべし観光でしかないなら、自分たちで自分の村を汚してしまうことにもなりうる。観光客が残していったプラスチック製品や電池などは自然に戻らず建物の一部になって残る。



■ドゴン村崖の上から

小学校を建てる、観光をする、それ自体何ら悪いことではないが、その後の影響を考えずに実行されることで逆に悪影響を招く。開発援助をする上での先見的な計画の必要性を実感した。

ドゴン族の生活から我々が学ぶものは何か、それは彼らの姿勢そのものであると考える。そうした姿勢が伝統や慣習などからくる理屈なしに大切にすべきものを受け入れさせ、村を形成する。それは我々にも共通するものづくりの要素であるはずである。砂漠化・貧困・病気等の現状で崩れかけている彼らの姿勢を守ることを通じて我々は自分の生活に欠けている要素を学んでいくべきであると感じた。



■ドゴン全観

さいごに

マリを旅立つ前の正直な感想は、“やっとなら”である。それほど、マリは、臭く、暑く、砂ばかりで、きつい旅だったが、宿のない私を泊めてくれた家族、自分たちの遊び場に連れていってくれた子供たち、自分とはかけ離れた世界に住む人と出会い、彼らの考え方を学べたことは本当に幸運であったと思う。また、研修ということから、あらかじめ目的や問題提起を持つことで、これまでにはなかった視点で旅行できたことは知識の面だけでなく、自分の感性も成長させるものであったように感じる。



■泊めてもらった家族と

このような機会を与えていただき、研修に際してご指導いただいた京都大学 木村亮先生をはじめ土木学会関西支部の方々、ここに記して心より感謝の意を表したいと思います。

派遣研修生の感想文のタイトルから

よくも思い切ったことをしたものだ
感謝！感謝！今日の私があるのも
この研修制度のおかげです
僕はいまだイタリアの「とりこ」
世界を見てから土木を見よう
初めての海外！
学びのきっかけ
ちょっとした冒険
思い入れの深い国
人生を変えた研修でした
かけがえのない貴重な経験
魅力ある研修制度

研修生からの便り 支部長の方々へ

エジプトより

3月6日 カイロ 雨。

جمهورية مصر العربية

POST CARD

今、タハリール・クロオパトウホテルに居ます EGYPT

予想以上に金がかかりましたので

早く安いルクソール、アスワンに行こうと思います。(3月8日にルクソールに発ちます) 元気で

土木学会のほうへ連絡よろしく願

します。くれでは お元気で

(また帰たら 訪問します。)



Yoshida Honmachi

KYOTO shi Japan

KYOTO Univ. Civil

Adachi labo.

東京大学 土木研究所
Ryo Kimura

0321 木村 助手 様

المتحف المصري - القناع الذهبي لـتوت عنخ آمون
الذي وجد على موميائه

EGYPTIAN MUSEUM - CAIRO

Golden mask of Tut-Ankh-Amoun,
found on the King's mummy's head

イタリアより イタリア語で書かれたハガキ

NAPOLI Posillipo Buongiorno Come va?
È difficile studiare i
piazze in Italia. Mi sembra
due genere per la piazza in
Italia. Uno per traffico e altre
per conversazione. In Italia
la strada è affollatissimo, così
per dire, Italia è costituito
per veicolo e piazza. Secondo Me
è più caro fare viaggio in
Italia che pensavo. Io sono
stato Italiano. Can you
find out the above? If you
cannot, you ask some
Italiano, please, Ciao.

edizione Vincenzo Caracciolo - Napoli
Via S. Balduccio 29, Tel. 3.11.11.11

Tosafreda Kikano

Giappone

606 京都府 京都市 左京区 吉田本町

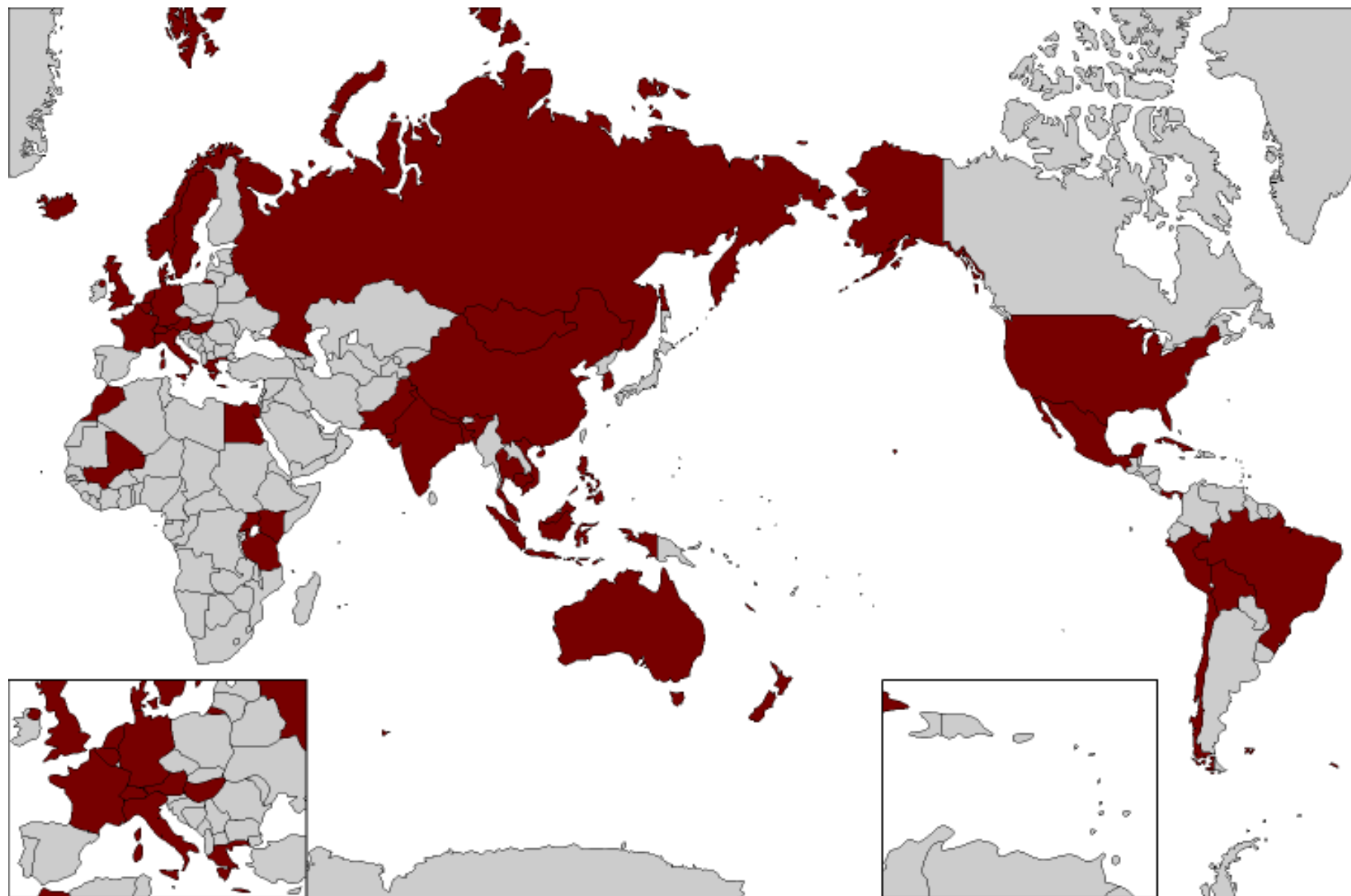
京都大学工学部
交通土木学科

定立 研究所内

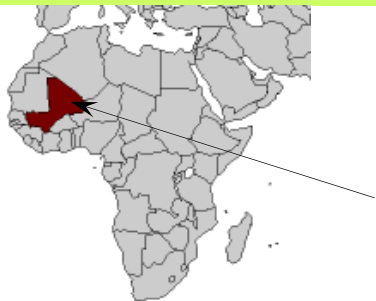
Dottore, 木村 亮



研修生の訪問国 (47ヶ国 2494日)



研修生の訪問先（大市大 4回生 金田さん）



マリ共和国



ドゴン村、崖斜面上の日干し煉瓦と泥の家



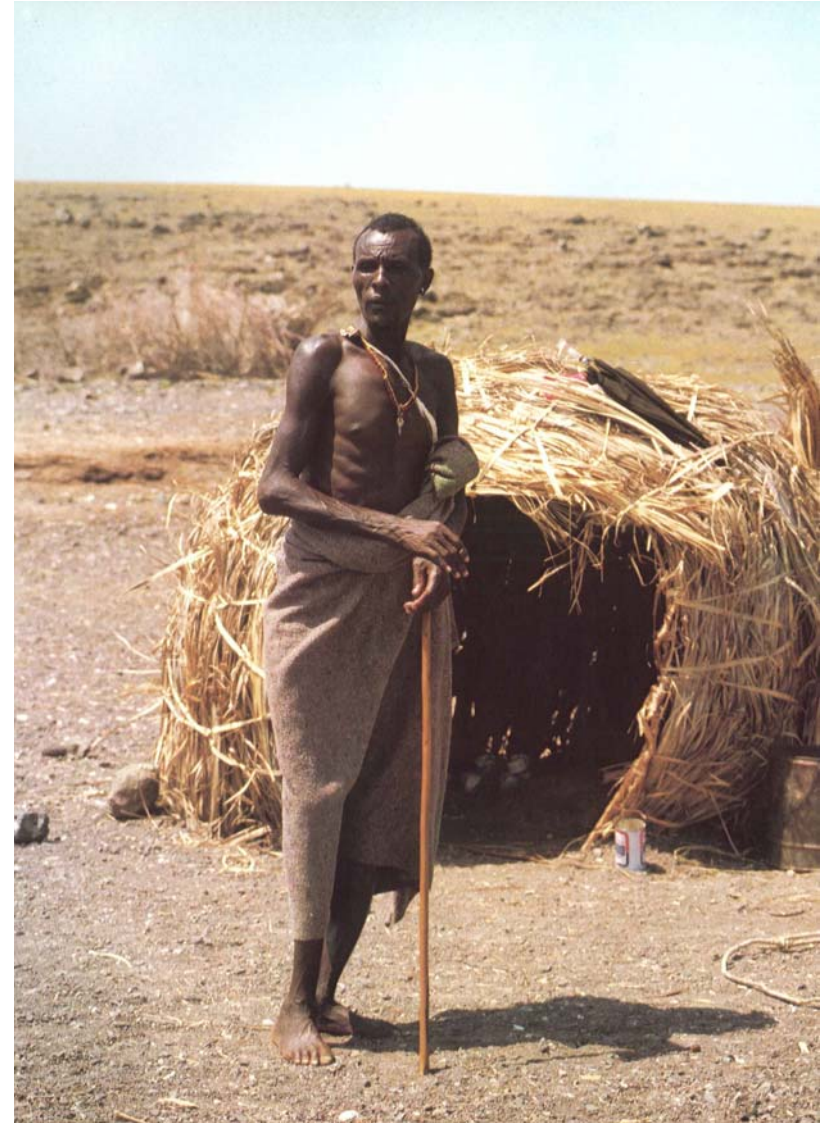
バンディアガラ（崖）



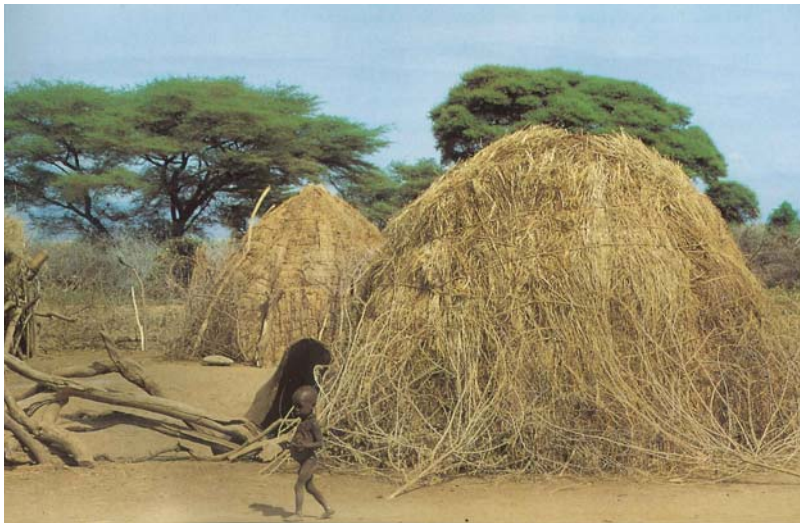
ドゴン族

（写真は<http://4travel.jp/sekaiisan/bandiagara/>より引用）

永久幹事としてアフリカは私の得意とするところだ

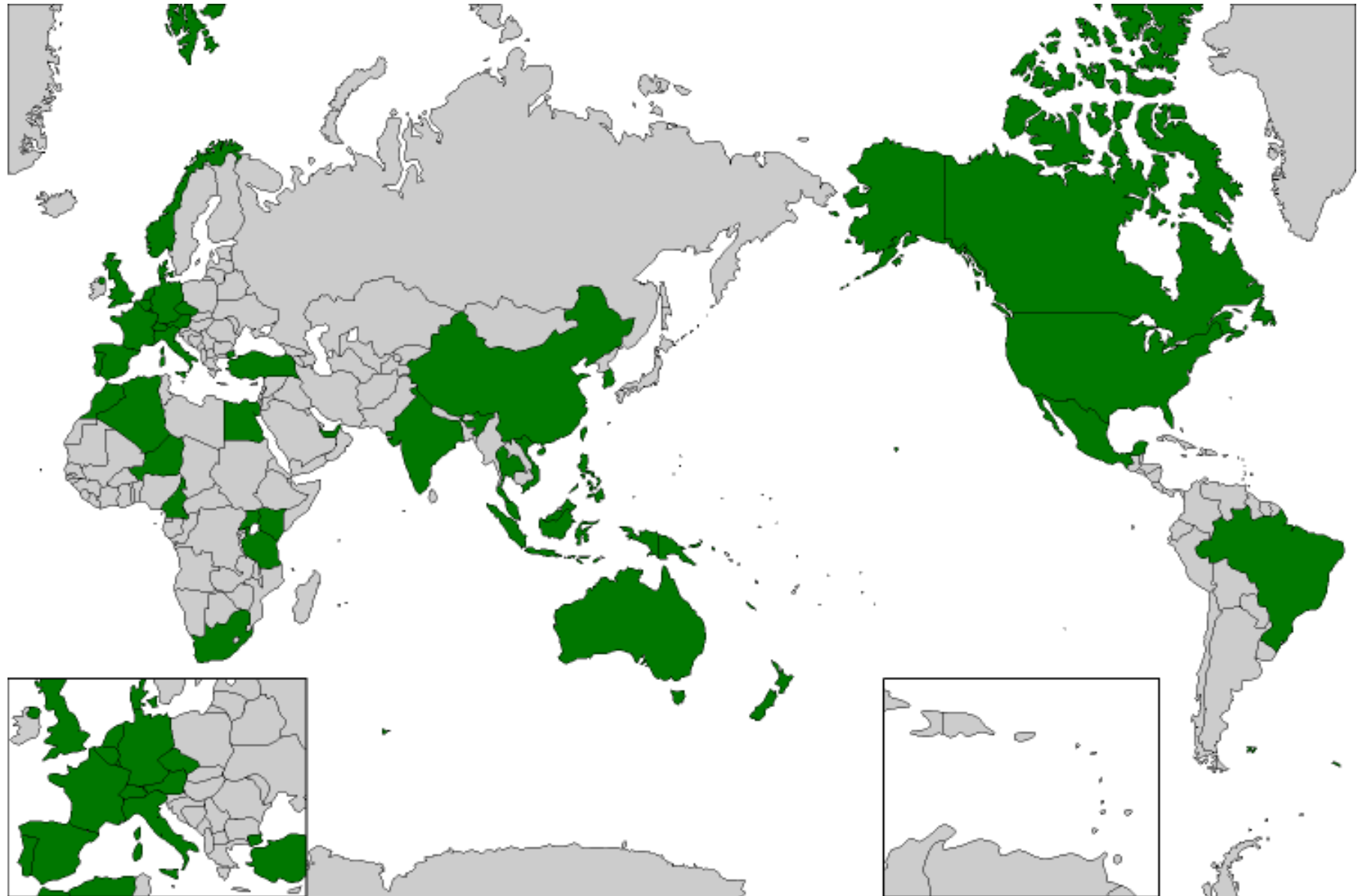


サハラ
縦断

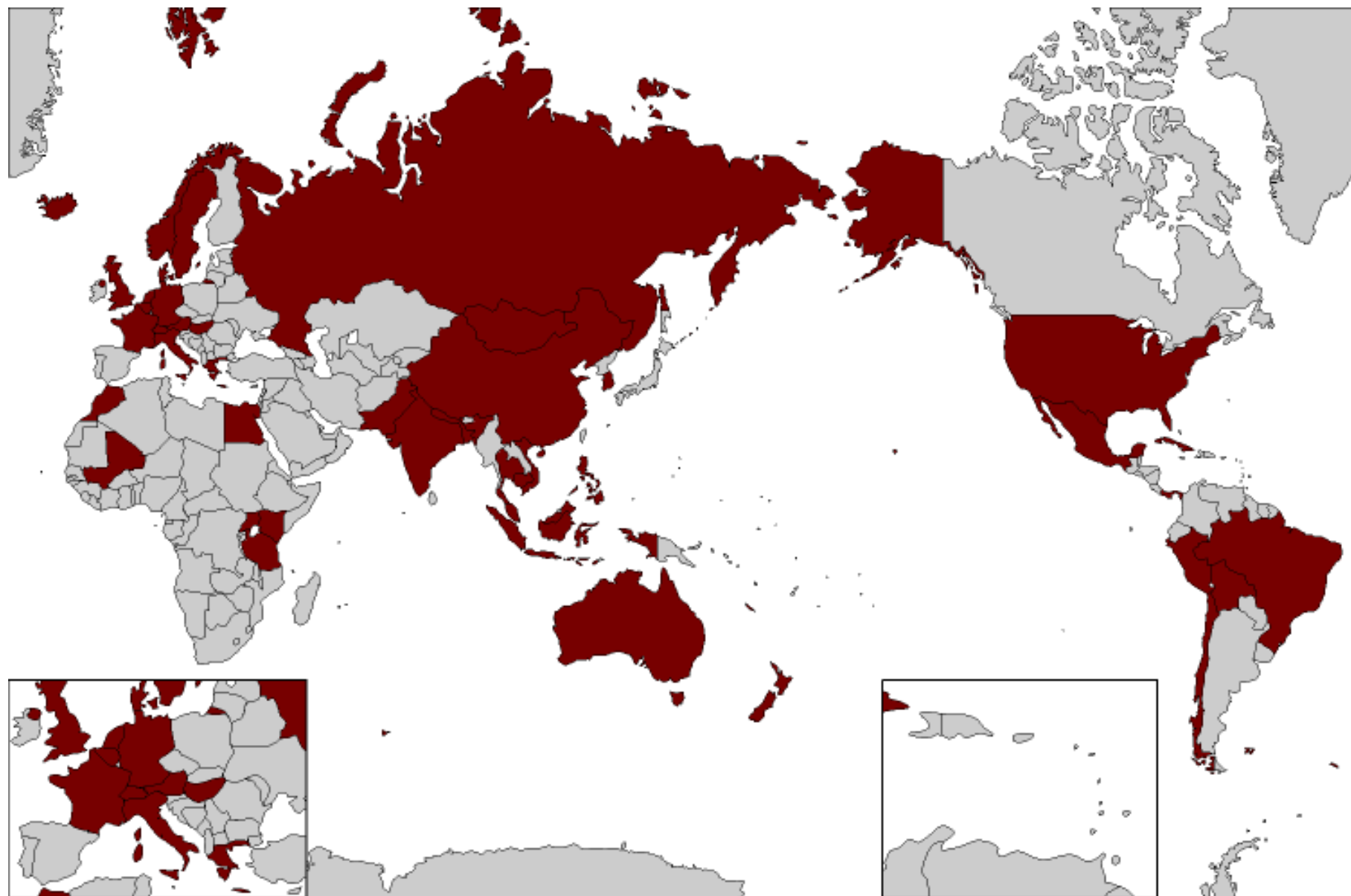


ケニア トゥルカナ エルモロ族

私の足跡



研修生の訪問国 (47ヶ国 2494日)



元永久幹事の個人的な感想

- **94名の瞳の輝き**

一人で長い日数旅行した後の自信に
満ちた姿 **初めての海外**

世界の窓を通して日本を見る
自分が外国に行かずとも楽しかった仕事

- **基金の果実での運営**

退官された先生方からの寄付金
(**21名**)

研修援助基金創設

(平成元年 **3110万円**)



**もう一度復活させることは不可能
なのか？**

**関西支部の関西支部らしさは
個人の寄付での運営は無理か**

100万円で運営できる
毎年**3名**の目を輝かせたい

**私たちは次代の土木界を担う若者
たちへ何ができるのか？**

特定幹事等（昭和62年度～平成8年度）

|昭和62年度|昭和63年度|平成1年度|平成2年度|平成3年度|平成4年度|平成5年度|平成6年度|平成7年度|平成8年度

幹事長

土岐 憲三
(京都大学)

足立 紀尚
(京都大学)

松井 保
(大阪大学)

渡邊 英一
(京都大学)

高田 至郎
(神戸大学)

担当幹事

田村 武
(京都大学)

角野 昇八
(大阪市立大学)

真嶋 光保
(大阪市立大学)

戎井 章浩
(株ニュージエック)

原内 康隆
(三井建設株)

山崎 聡一
(神戸市)

北田 正彦
(道路公団)

浜田 信彦
(阪神高速道路公団)

木村 亮
(京都大学)

特定事業幹事

川井 隆司
(神戸大学)

青木 伸一
(大阪大学)

道奥 康治
(神戸大学)

重松 孝昌
(大阪市立大学)

今井 正人
(京都大学)

小田 和弘
(大阪大学)

中山 昭彦
(神戸大学)

豊福 俊英
(関西大学)

道奥 康治
(神戸大学)

(平成9年度～平成17年度 合計 約45名)

|平成9年度 |平成10年度 |平成11年度 |平成12年度 |平成13年度 |平成14年度 |平成15年度 |平成16年度 |平成17年度 |

池淵 周一
(京都大学)

嘉門 雅史
(京都大学)

田村 武
(京都大学)

川谷 充郎
(神戸大学)

宮川 豊章
(京都大学)

山崎 聡一
(神戸市)

多田 隆司
(関西電力株)

眞鍋 英規
(株富士ピー・エス)

吉田 信之
(神戸大学)

平松 祐之
(西日本旅客鉄道株)

塩谷 智弘
(大阪市)

川村 幸男
(大阪市)

小笹 展啓
(株修成建設コンサルタント)

高橋 直樹
(株ニュージエック)

吉村 文章
(兵庫県)

木村 亮
(京都大学)

飯田 克弘
(大阪大学)

松村 暢彦
(大阪大学)

豊福 俊英
(関西大学)

辻本 剛三
(神戸高専)

上中 宏二郎
(神戸高専)

石丸 和宏
(明石高専)

岸田 潔
(京都大学)

50 19 389 94 24
47 2494 21 3110
100 3 45

**後々まで継続させる事業
学会本部が口惜しがるようなこと
人への影響の大きさを痛感した制度
私は永久幹事だ**

マ리를旅立つ前の正直な感想は“やっと帰れる”である。それほど、マリの国は、臭く、暑く、砂ばかりできつい旅だったが、宿のない私を泊めてくれた家族、自分たちの遊び場に連れて行ってくれた子供たち、自分とはかけ離れた世界に住む人と出会い、彼らの考え方を学べたことは本当に幸運であったと思う。

また、研修ということから、あらかじめ目的や問題提起を持つことで、これまでになかった視点で旅行できたことは知識の面だけでなく、自分の感性も成長させるものであったように感じる。 (金田さんの感想文)